



利根中央病院だより

# きらめき



第63号  
2022年 春号

発行責任者 利根中央病院 病院長  
編集責任者 利根中央病院 事務長  
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1  
TEL：0278-22-4321（代表）  
FAX：0278-22-4393  
URL：https://www.tonehoken.or.jp/

## 心不全パンデミックと心不全治療

循環器内科科長

近藤 誠



心筋梗塞や狭心症の増加や高齢化による高血圧や弁膜症の増加により、心不全患者が急増しています。その罹患率は高齢になるほど高く、高齢化が進む我が国では患者数の増加が続くと予想され、こうした状況を「心不全パンデミック」と呼んでいます。

心不全は一度発症すると根治は期待できず、入院を繰り返しながら生活の質が低下し、予後が悪いと言われています。したがって早期発見が重要で、心不全症状が出現する前（ステージA/B）に発見し介入することで発症を遅らせ、発症後（ステージC/D）は専門的治療を行い、繰り返す入院や生

活の質の低下を防ぐ必要があります。

また心不全の高齢者では、様々な疾患やフレイル、サルコペニア、認知症の合併も多いため、生活や服薬の指導、介護の調整など包括的介入も必要になります。そのため心不全診療には、早期発見から専門的治療、介護やりハビリまで、地域全体で様々な職種が連携していく体制作りが重要です。

当院では心不全に対する専門的治療に加え心臓リハビリチームによる多職種での包括的な介入を行っていますが、今後は地域の医療機関や介護施設などとも協力し、心不全診療を充実させたいと考えています。

## 血管撮影装置導入の紹介

2021年12月に新規アンギオ装置を導入しました。この装置はアームを多方向に移動させ全身の血管を撮影できます。主に心筋梗塞や狭心症の治療、心不全の精密検査に使用しています。



Canon 社製血管撮影装置

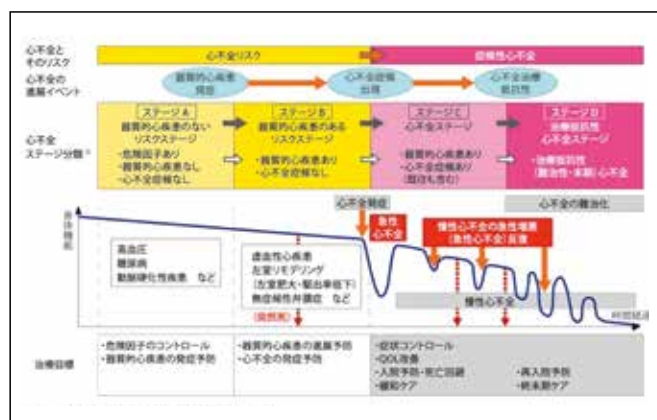


図1 心不全とそのリスクの進展ステージ（厚生労働省、2017より改編）

2021年 JCS/JHFS ガイドライン フォーカスアップデート版 急性・慢性心不全診療（日本循環器学会/日本心不全学会合同ガイドライン）

## 新任医師あいさつ

消化器内科 医長 <sup>ふかい やすもり</sup> 深井 泰守

消化器内科を専門としています。利根沼田地域の医療に貢献できるよう頑張ります。



腎臓内科 <sup>おおつか まさのり</sup> 大塚 瑛公

今年度より腎臓内科として勤務させていただきます。沼田市の出身で卒後7年目になります。内科医として駆け出しではございますが、地元にご貢献できるよう精一杯頑張りたいと思います。何卒よろしくお願い致します。



総合診療科 医長 <sup>いしわた あきら</sup> 石渡 彰

今年度から総合診療科で勤務させていただきます、石渡彰と申します。今までは主に大学で勤務していました。地域の皆様の声に応えられるよう勉強させていただきたいと思っております。



総合診療科 <sup>しらい あやこ</sup> 白井 絢子

半年間という短い研修期間ではあります。短いからこそ1日1日を大切に過ごして行きたいと思っております。ご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。



小児科 <sup>えだ よういち</sup> 江田 陽一

今年度から小児科に赴任しました江田陽一です。地元は太田市で、高校は中央中等教育学校、大学は群馬大学を卒業しました。大学時代は野球部に所属していました。まだまだ未熟ものですが、群馬県のこどもの医療のために頑張ります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



小児科 <sup>やぎ りゅうすけ</sup> 八木 龍介

今年度より小児科に勤務させていただきます。地域の子どもの笑顔のために精一杯頑張っております。至らない点も多いと思いますが、よろしくお願い申し上げます。



整形外科 <sup>なかじま ともき</sup> 中島 知貴

始めまして。整形外科の中島知貴です。出身は玉村町で富山大学出身。大学時代はラグビーをしていました。皆様のお役に立てるように精一杯頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



整形外科 <sup>たかはし ゆう</sup> 高橋 佑

今年度よりお世話になります。茨城県の出身ですが、いろいろな縁があり群馬県で整形外科として働いております。少しでも地域の診療のお役に立てるよう尽力して参ります。よろしくお願い致します。



整形外科 <sup>つづき しゅんぺい</sup> 都築 俊平

整形外科専攻医2年目の都築俊平と申します。出身は茨城県のつくば市で、大学から群馬に越してきました。趣味は食べることです。ご迷惑をおかけすることが多々あるとは思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



外科 <sup>ほそい のぶひろ</sup> 細井 信宏

今年から赴任となりました、外科6年目の細井と申します。群馬大学出身です。至らない点が多くご迷惑をおかけすることもあると思いますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。



内科 <sup>いのうえれん たろう</sup> 井上 錬太郎

二年間総合診療科で研修を行い、今年度より内科専攻医として勤務することになりました。まだまだ至らない点が多く、地域の先生方にはご迷惑をおかけすることもあるかと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



## 研修医の紹介とあいさつ

総合診療科 うえの たかや  
植野 貴也



初期研修に引き続き、利根中央病院で総合診療科医師として勤務させていただくことになりました。地域の皆様の健康維持・向上に少しでも貢献できるようにがんばります。どうぞよろしくお願い致します。

総合診療科 よしだ たくお  
吉田 卓生



初期研修から引き続きお世話になります。総合診療科の一員として利根沼田地域の健康に貢献できるように尽力していきたいと思っています。もともと埼玉の南側の出身なので、地域のことを知りながらになりますが、よろしくお願いします。

## 研修医の紹介とあいさつ

研修プログラム  
責任者・副院長 よしみ せいし  
吉見 誠至



新年度を迎え、当院に新たに初期研修医6名が加わりました。若いやる気に満ちた先生達加わることで、院内も活性化される感があります。

初期研修医には研修期間中に医師としてのしっかりとした基礎をつくって、地域の医療にも貢献してくれることを期待しています。視野を広くもち、それぞれの目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。

昨年度は、一昨年度に引き続いて新型コロナ感染対策をしながらの診療となりましたが、臨床研修はほぼ例年通り行うことができました。コロナ禍の中、工夫をしつつ、よりよい研修ができるように今後とも努力して参りたいと思います。地域の先生方をはじめとして、日頃大変お世話になっておりますが、引き続きよろしくお願い致します。

初期研修医 おざき ゆうた  
尾崎 佑太



群馬大学出身の尾崎佑太と申します。沼田出身です。小中高大と野球部に所属していました。今は、ゴルフやキックボクシングなどをやっており、体力には自信があります。精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

初期研修医 のなか ひろなが  
野中 滉久



今年度より研修医としてお世話になります。富岡市の出身です。利根沼田地域で研修できることを楽しみにしています。研修で多くのことを学び、少しでも地域の皆様のお力になれば幸いです。よろしくお願い致します。

初期研修医 きくしま あさひ  
菊島 旭



群馬大学出身の菊島旭といいます。本年度から、2歳になる娘含め、3人で昭和村に引っ越しをしました。ご迷惑をおかけしてしまう事もたくさんあると思いますが、持ち前の根性で、頑張っていけます。よろしくお願い致します。

初期研修医 ほこだ さちこ  
箱田 祥子



今年度より研修医としてお世話になります。高崎市出身で、学生時代お世話になりましたこちらで働かせていただけることを嬉しく思います。皆様のご指導の下、精一杯研修させていただきます。よろしくお願い致します。

初期研修医 さとう せい か  
佐藤 聖佳



今年度より研修医としてお世話になります。東吾妻町の出身で、自然の中で体を動かすことが大好きです。地域の皆様のお力になれるよう精進する所存です。よろしくお願い致します。

初期研修医 もり ゆうや  
森 湧也



群馬大学出身、研修医1年目の森湧也と申します。故郷は群馬県長野原町です。大学ではスキー部とオーケストラに所属していました。自然豊かな利根沼田地域での研修を楽しみながら日々研鑽に励んで参ります。よろしくお願い致します。



## 2021年度群馬民医連臨床 研修報告会 オンラインで開催

3/5（土）、2021年度群馬民医連臨床研修報告会がオンラインで開催されました。臨床研修報告会は、群馬民医連に所属する研修医（初期研修医・専攻医・他）が、1年間の研修で得た学び・知識を指導医やメディカルスタッフと共有することを目的として開催しております。『私を成長させてくれた事例』を演題テーマとして、経験した症例や事例を通して学んだことや実感したこと、今後の自分の医師



像や医療観などそれぞれの思いについても話されました。

最後は、研修修了者へ記念品贈呈のセレモニーが行われ、発表者を含め全体で約70人の参加で盛会のまま終了することができました。

## 医療従事者を励ます花火

「昭和村に花火を上げる会」のご厚意のもと、医療従事者を励ます花火が上がりました。多くの入院患者さんのひと時の癒しにもなりました。



## きらめき トピックス

### デスカンファレンスの紹介 看護部

2020年から、看護部では総合診療科と協力しながら継続的にデスカンファレンスを開催しています。開催目的は3つです。①多職種で事例を振り返ることで、事例を多角的にとらえ今後のケアに活かすことができる。②事例におけるモヤモヤ感を表出することで、医療従事者自身のグリーフケアを促進する。③デスカンファレンスをとおして、部署または事業所間を超えたスタッフ間交流を図り、連携を促進する、です。Jonsenmの医療倫理4分割法に沿って、ファシリテーターを中心に進行し意見交換を行います。参加者全員が発言すること、決して他者の意見を否定しないこと、結論を導き出さないことが約束事です。

日々の看護において、「私たちの看護は患者さんに寄り添うことができていたのか?」「患者さんと

医療者間、あるいは医師と看護師間での意思疎通のすれ違い」など、ジレンマを抱える場面が少なくありません。デスカンファレンスでは、自分たちの行った医療・看護を可視化し、医療従事者間で価値観や想いを共有することで、倫理的ジレンマを緩和し且つ次の医療・看護へと繋げていくことができます。

今回のデスカンファレンスは、退院後に自宅で亡くなられた方について開催しました。参加した看護師からは「患者さんがどのような想いであったのか改めて考えるきっかけになった。今後の看護に活かしていきたい」「病気を抱えて入院した患者さんという側面だけでなく、患者さんを取り巻く様々な社会制度との関係や多職種からみた患者の捉え方など学ぶことで、自分たちの看護の振り返りができた」などの声が聞かれました。今後もデスカンファレンスを継続的に開催し、ケアの質向上につなげていきたいと思っております。